

ダイジェスト版

『県民ボランティア運動』 推進のための指針

ともに支えあい 結びあう やまなし



平成11年3月

山梨県

1 背景

成熟社会を迎え、「物の豊かさ」から「心の豊かさ」に人々の志向が変化していく中で、個性や創造性が尊重される一方、人と人との関係が希薄化しつつあります。また、少子・高齢化の進行や社会経済の国際化など急激な変化に対応した新しい社会システムの構築が必要となってきました。

このような中、ボランティア活動は、福祉、教育、環境保全、まちづくり、芸術・文化、国際交流など生活全般に広がりを見せ、その内容も、奉仕的な活動から地域課題への主体的な取り組みなど多様なものとなってきました。

2 指針の目的

これから迎える21世紀を、県民・企業・行政がそれぞれの役割を果たし、共に支えあい、結びあい、県民自らが自分達の手で主体的に郷土やまなしを築いていくことが求められています。

そのため、「県民ボランティア運動」を提唱し、ボランティア活動を推進し、県民の皆さんと共に山梨の未来を拓いていきたいと考えています。

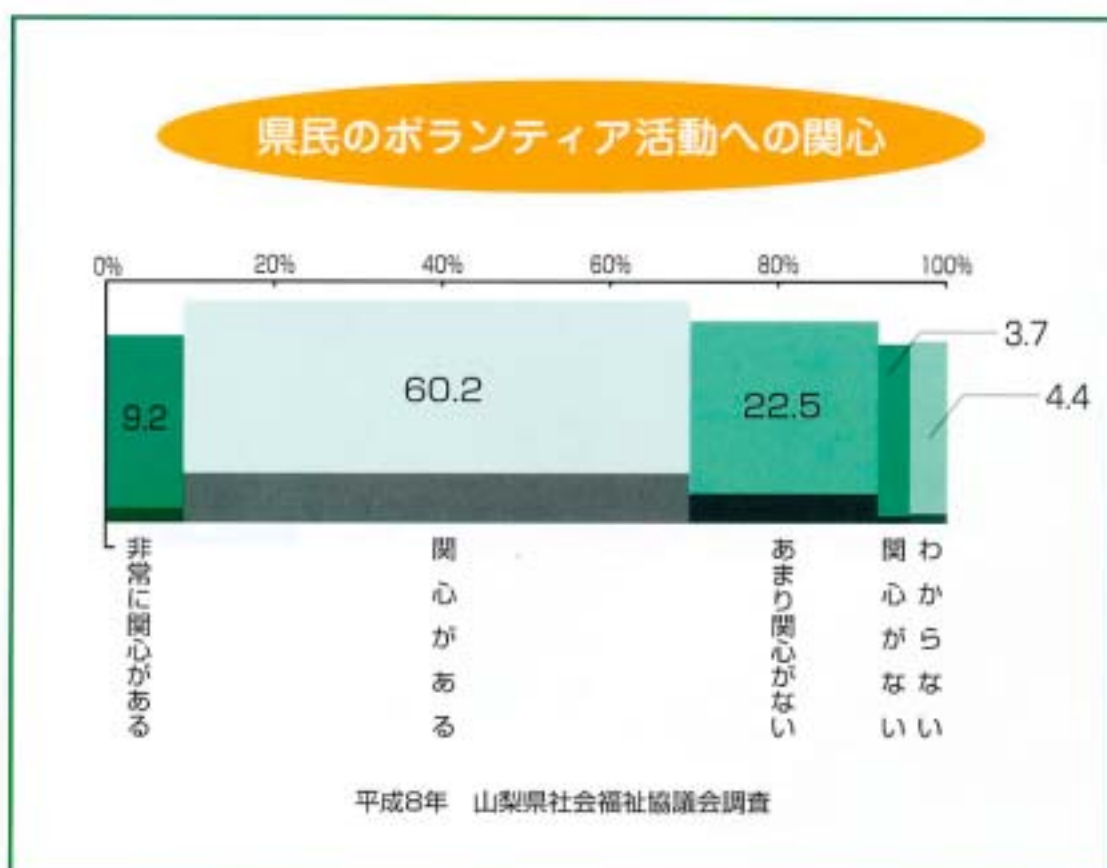
この指針は、ボランティア活動が抱えている課題や本県の特性を踏まえた中で、今後のボランティア活動の方向を示すとともに、総合的な推進を図っていくための道標として策定いたします。

3 ボランティア活動の現状と課題

本県のボランティア活動は、社会的な活動の行動率が38.6%と全国第3位を示しているように幅広く県民の皆さんの参加を得ています。

しかし、県民の中にはボランティア活動を特別なものと考え、活動に踏み込んでいけない多くの人々がいます。また、自主的・主体的な活動であるボランティア活動を行政の補助として捉えている人も少なくありません。

このようなボランティア活動に対する誤解を解き、県民一人ひとりが自分のできることを無理せず、楽しく行い、その活動を通して新しい仲間づくりと社会への参加を果たしていくことが求められています。



4 県民ボランティア運動

この運動は、県民の皆さんの様々な「思い」が結びあい、共に支えあっていく共生社会を山梨に築いていくため、皆さんの主体的な参加を期待し、県民の皆さんと共に創っていく運動です。

基本理念

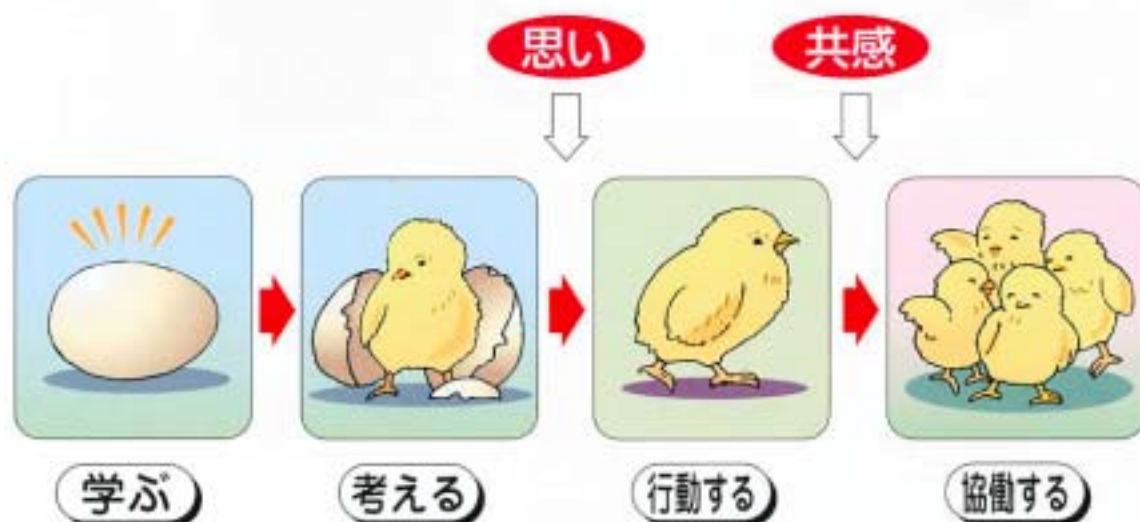
● 個人の素直なボランティア精神を基本に

だれにでも社会をより良くしていく「思い」はあるはずです。この自主的な「思い」を出発点にして、ボランティア活動を育てていく必要があります。

● 県民・企業・行政の良好なパートナーシップを基本に

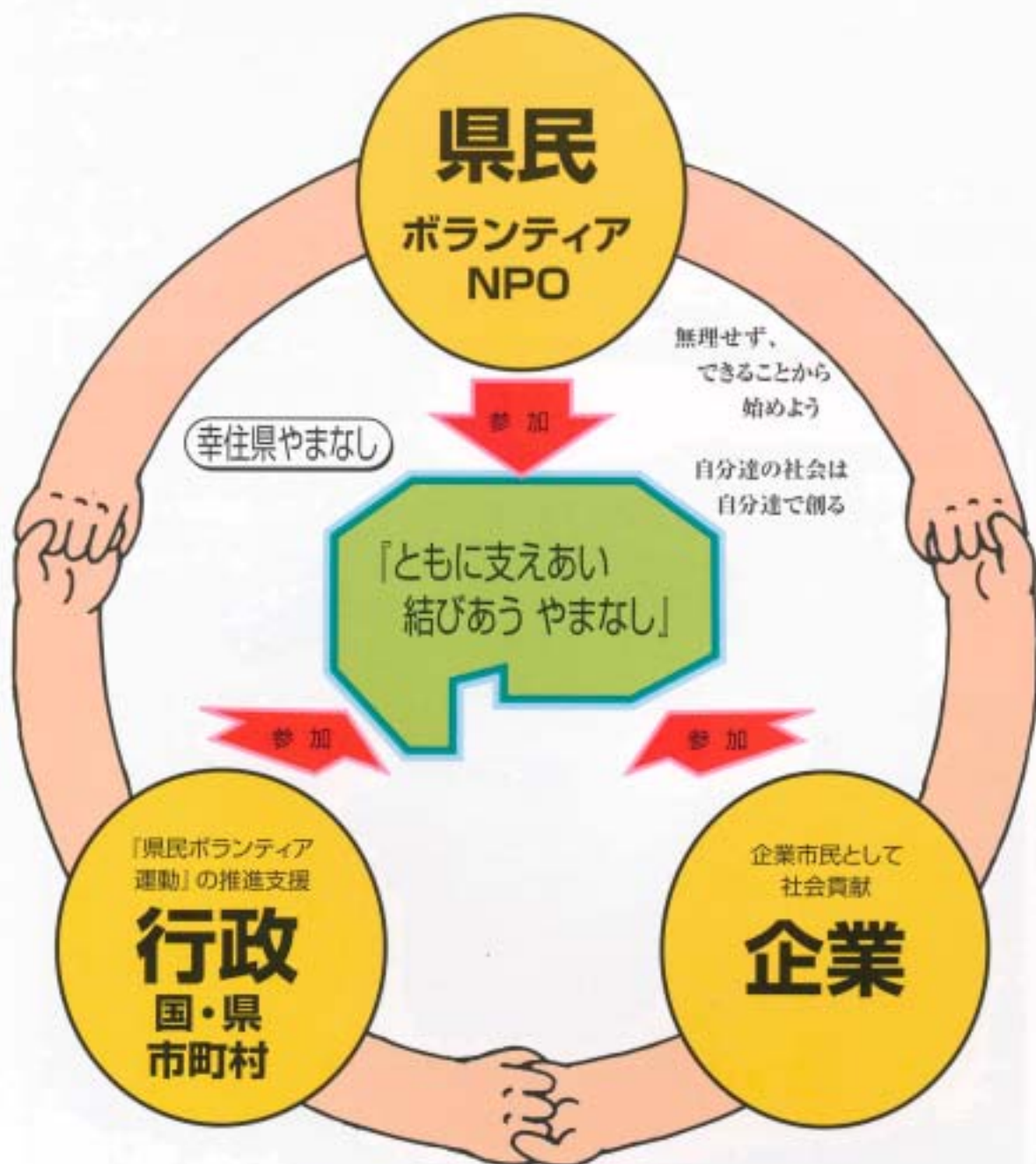
山梨の社会は、県民・企業・行政により支えられています。この3者が良好なパートナーシップで結ばれることが必要です。

そのためには、お互いの個性や特性を認め合い、対等で相互に責任あるものとして、協働しあえる関係を共に築いていく必要があります。



県民ボランティア運動のイメージ図

* 「結ぶ手と手」は、ネットワークを、「参加」は各分野がそれぞれの役割を果たし、協働して、ともに山梨を支えることを意味します。



(イメージ図の具体例)

ゴミの減量化を例にすると、「県民の参加」は、「分別収集」や「リサイクル活動」であり、「企業の参加」は、「リサイクル商品の提供」や「リサイクル活動への支援」であり、「行政の参加」は、「ゴミ減量化の施策の実施」や「リサイクル活動の推進・支援」となります。

基本目標

● 参加の促進

ボランティア活動が、地域に根づいていくには、個人の素直な「思い」を育てていくとともに、社会を構成する一人ひとりの県民、個々の企業、各行政主体の総てが、主体的に社会に参加していくことが求められます。

● 連携と協働の推進

個人の「思い」をその個人やグループ内に止どめておくだけでは、その「思い」は大きな社会的な力とはなっていきません。その「思い」が結び付き、社会の共感となり、様々な交流の中で関係しあい、連携と協働が生み出されていかなければなりません。

● 未来を拓く活動の展開

ボランティア活動は、自分達の社会を自分達で創る活動であり、山梨の未来を拓いていく活動です。様々な活動が生き生きと展開され、誰もが生きる喜びを実感できる「ともに支えあい 結びあう やまなし」を築いていくことが望まれます。



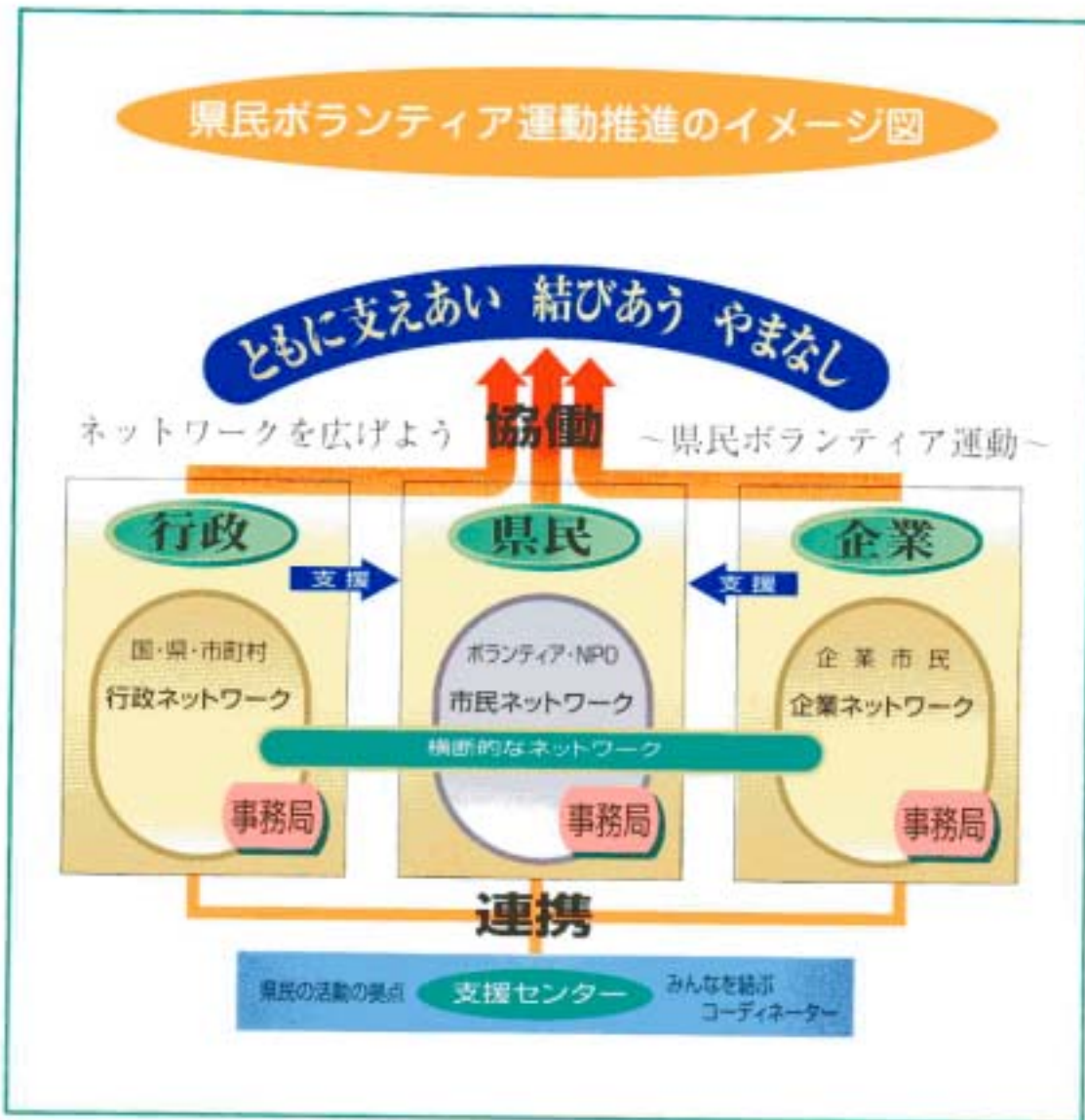
阪神・淡路大震災におけるボランティアの活躍

運動のしくみ

個人の必要感から発する「思い」を社会の「共感」としていくためには、多様な主体が、幅広く自由に参加できるネットワークがつくられていくことが必要となります。

「県民ボランティア運動」は、県民の自主的なネットワークが連結しあい広がっていくことにより、展開されていきます。

そして、このネットワークにより、社会全体の共に支えあう仕組みが形づくられていきます。



5 推進のために

社会環境の整備

ボランティア活動を推進していくには、深く係わる社会環境や社会構造を社会全体で整えていく必要があります。

- ① 地方分権の推進
～ 地域のことを地域で決め行える仕組みが必要です。
- ② 行政改革の推進
～ 公益に係る全てのことを行政が行う方法に限界がきています。
- ③ 情報の公開
～ 活動するには、社会の仕組みを知らなければなりません。
- ④ 生涯学習の推進
～ 活動は、自ら学習することから始まります。
- ⑤ 男女共同参画社会の実現
～ 男女に関する固定的な意識が、主体的な参加の障害となっています。

県民の皆さんと共に『県民ボランティア運動』を推進していくとともに、活動の基盤の整備や、パートナーとしての支援を実施していきます。

● 参加の促進

(1) ボランティア教育の推進

福祉、国際理解、環境など実体験に基づく心の教育を、幼児期から、社会教育・学校教育を初め、家庭や地域において総合的に推進していきます。

(2) 啓発普及活動の促進

『県民ボランティア運動』が地域に根づいていくため、ボランティア活動の意義を初め、福祉や環境保全など様々な社会課題への県民の意識を高めていきます。

(3) 参加促進のための環境づくり

ボランティア活動への参加の環境を整えるため、ボランティア保険やボランティア休暇の制度の普及充実を初め、登録制度や参加体験できる機会などの仕組みを充実していきます。



こどもエコクラブ



メンバーズバッジ

● 連携と協働の推進

(1) ネットワーク化への支援

社会に対する「思い」を共感としていくためには、様々な交流がネットワーク化し「思い」が伝播されていく必要があります。

そのため、県民のネットワークが様々に結びあい交流していくことを支援するとともに、行政のネットワークへの参加を推進します。

(2) 情報の交換・共有

ネットワークを形成していくには、多様な情報が連結され、共有されることが重要です。そのため、「県民ボランティア運動」の推進の基盤として、ボランティアやNPOを初めとする県民参加の情報システムを整備していきます。

(3) 協働の推進

県民と共に郷土山梨を創っていくため、県行政の中に「パートナー事業」を導入していくとともに、連携・協働する場を県政のあらゆる場面に設定していきます。



こどもたちの国際交流

● 未来を拓く活動の展開

(1) 支援センターの整備

ボランティアやNPOがより質の高い広範な活動を展開していくには、活動の拠点となる支援センターが必要となってきます。

個々の分野に応じた専門的な支援センターも必要ですが、多様な活動に対応できる総合的な支援センターが必要となっています。

そのため、総合的な支援センターの機能について検討し、必要な整備を進めていきます。

(2) 安定した活動資金の確保

現状、ボランティアやNPOの最大の悩みは、活動資金の不足にあると言われています。そのため、さらなる税制上の優遇措置を検討していくとともに、基金などによりパートナーとしての支援を進めます。

(3) 人材の育成

活動が有効な役割を果たしていくには、コーディネート機能の充実が望まれます。そのためのコーディネーターなどの人材の育成を支援していきます。

(4) 質の高いサービスの提供

ボランティアのサービスにおいても質の高いものが求められています。そのために必要な知識や技能の習得を積極的に支援していきます。



当面する重点施策

● 大規模な災害への対応

本県には地震防災対策強化地域の指定があるなど、大規模な災害の発生が心配されています。大規模な災害に地域が強靱に対応していくためには、行政のみならず、県民や企業が共に連携し、協働して対応していく仕組みが構築されていく必要があります。

そのため、災害に関する広範なボランティアやNPOのネットワークの形成を支援するとともに、災害時におけるボランティア活動の支援や、防災ボランティアの育成を行うための拠点の整備を進めていきます。

● 介護保険制度への対応

介護保険は地域社会がみんなで高齢者の介護を支え合っていこうとするものです。この制度へのボランティアやNPOの積極的な参加は、提供するサービスの量を充足するのみならず、豊かな選択肢を利用者に供与していくものとなります。

そのため、ボランティアやNPOの積極的な参加を促すとともに、必要な支援を実施していきます。

● 未来を拓く人づくりへの対応

新しい学習指導要領が制定され、平成14年度の完全学校週5日制とともに実施されることとなりました。子供達にゆとりの中で、実体験を通して、「生きる力」を教え、個性の伸長は勿論のこと、他人や社会に関心を持ち、社会に積極的に参加していくことを促していくことは、山梨の未来を創る人づくりにおいて欠かすことのできないことです。

そのため、学校、地域、家庭、行政によるボランティア教育を進めるためのネットワークの整備や、その支援を実施していきます。

編集・発行 山梨県企画県民局 県民生活課
Eメール/kenmin-skt@pref.yamanashi.jp
〒400-8501 甲府市丸の内一丁目6-1
☎ 055(223)1350(直通) FAX 055(223)1354
印刷 株式会社 少國民社

この冊子は、再生紙を使用しています。